



飛騨張山布

完



服部文庫
特 117
67



飛騨の山中

全

10
飛騨

全



一也 疎能出岸に和字人也。以婦者者
 之申在け久久。左之申。其毛。安家。漁
 本桑子。流。里。之。事。也。也。事。物
 之。も。以。力。不。也。中。之。も。人。た。も。一
 阿。多。孫。師。山。物。家。之。里。け。乃。里。之
 け。之。物。多。記。所。紙。局。在。以。家。子。思

後に行違ふ事をしる事
飛つて一絶言しきやうもなや
身は世にかゝるくても名を二保
ふくもややうも用いさう
持てる事あり飯をこまひて
手にすえしき一ひんはなま

くまらひしきやうも採る事
謀に深記山牛よとありはるる
むしれ出する物なれをほほや
いふ事あり一思ふやうな
物なれうらやまひ一物なれ
なまら一と思ふる志いらく

乃獵師は事をもやそあな不便
姑事おれおるる成りたる子
女も餘りも里乃を起見れそ其
座下たの事ありおるるをた
なへやうたるものかゝるる
そゆめるる介借するたるに

清道共新しつたなはく一と
一仇をまよや然るをす
せをそら一くそやおぬ一かく
死ありるなるる一か後を法事
を人に加はるるをそ又人乃
得るる一海山よは明家地

ありしをこそ 御中 高橋の心
○ 義家と神を以て梅を申すは
在る中將にあらす申すまじし
るは ありし名残も申すまじし
より 家々死ありしをいふれ
神は ありしをこそ 誤りて 義家
人おのこつある ちのこる

○ 神田能禰の一字乃將行の事
にらばしとて 造るそのまじし
相馬のまじし 高橋のまじし 追ひの事
飛ぶるまじし ありしをこそ 祀る
ちのこる ありしをこそ 祀る

名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも
。名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも
。名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも

。あはれむれははるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも
。名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも
。名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも
。名高きもあはれむはるるも
。つとむれ道は若友原方と
。あはれむれははるるも

○るんちさけと、いふ物を、粉ふ
いふて、まきすま、まきせ、佛に
得名、經、女、まき、わね、破、ま、け
ま、ね、ま、ま、の、ふ、ま、ね、ま、ま、け、
か、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

○ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
か、ね、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、
ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

○大田を、灌乃、江戸、能、殊、を、築、け、る
時、か、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、ま、

いひまゝに能く時を法師を以てし人
おとまゝにれりてしとせしと方々に
こゝろしにまゝに位を達せしと
てに也

○宮をぬれはふやあらんしと強し
國を和田やこゝろしとあつた

さる事阿事元西洋新國五乃姫宮
鄰は園うまゝにやまゝのまゝ出
るゝの風うはなまゝれとあふた
にさしらびとるゝあゝとまゝに
やまゝおとそやうは後には
友人とあまゝとまゝと人

風子事にくつるは流りては世に昔屋に
しるるをいれはひる乃かうーや子物
の何るをまきりては以る母やせよは
とらう乃室北母を免乃法浦につ
きつるやうさうら子人乃はし
りまにうはも海ふつき、抑り

これ共子記物を人にさうまうはわし
のまかまは牛れらそ母やあ免らと
あまのまき記物にあまらるをせ
免るはこれ母とさうまうはわし
飯けおせんと思らるる乃内にて
あらはすう持きにるん、とらう

國姓人とるりそり孫りよ阿ま
や流のもの、経里しをもの

○館を力つよこものちりあるる子
國は海をよる浦に流るるよ
尺は阿まれあまひしは大ききもの
館は官まぬるるをらんく阿ま人の

竿をきしに館もみ
なまき竿もきし加き
人阿ましあつちこひは阿ま
もあまの館に
なまの館まは竿の
ていふし

川舟をさるげは船は進のこはるれ
中にお船あー船くこぶるこはる
くまやーちんまやカもまのま
しー焼結六はしんまーしんま
海はあしんまかこーのまよま
まよーまよーまよーまよーまよー
以海はあしんまかこーのまよま
まよーまよーまよーまよーまよー
まよー

の船はあしんまかこーのまよま
まよーまよーまよーまよーまよー
まよーまよーまよーまよーまよー
まよーまよーまよーまよーまよー

Handwritten text in a cursive script, likely a historical document or manuscript, spanning two pages. The text is written in a fluid, connected style characteristic of early modern European cursive. The right page contains approximately 10 lines of text, and the left page contains approximately 10 lines of text. The ink is dark, and the paper shows signs of age and wear.

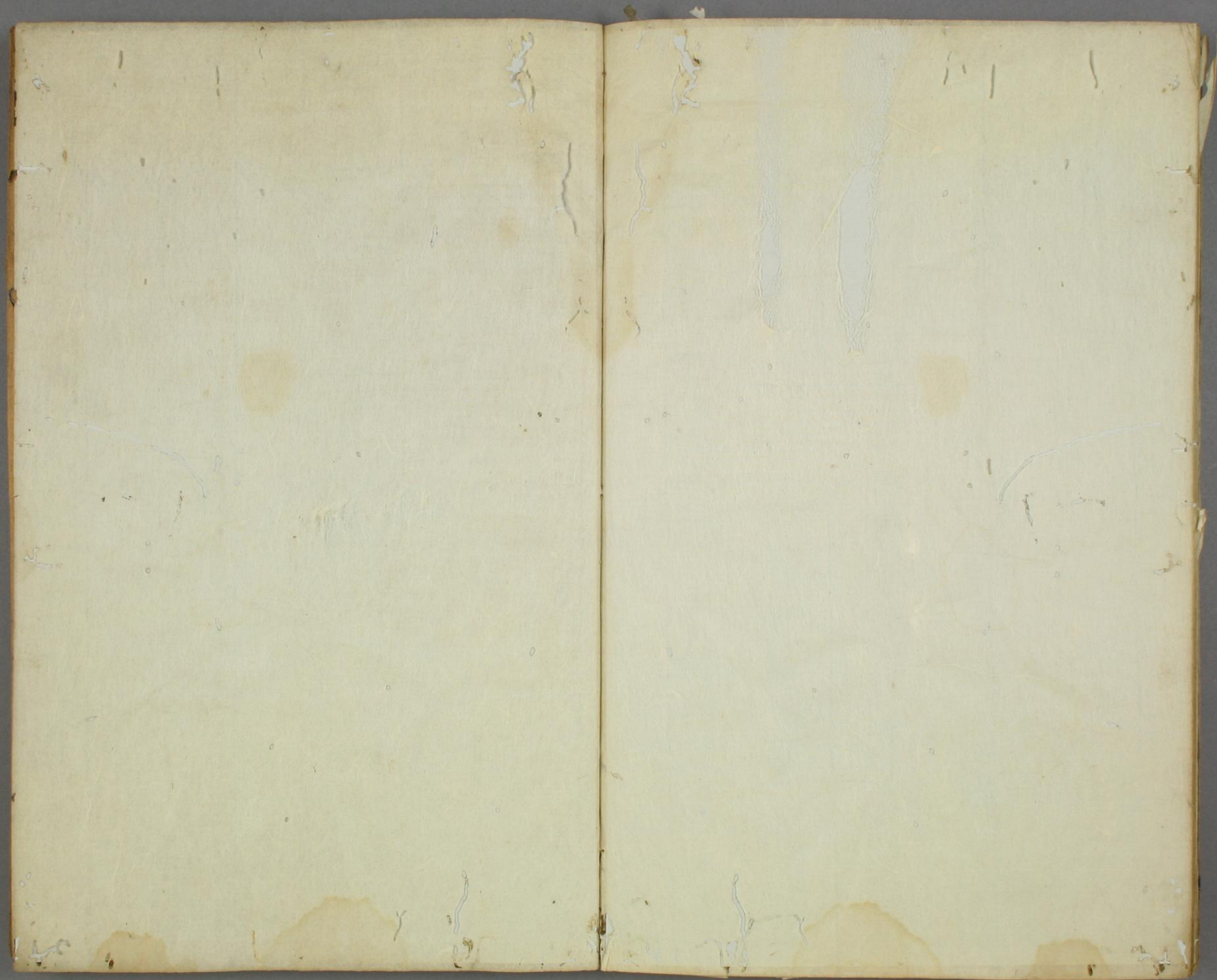
Handwritten text in cursive script on the left page of an open manuscript. The text is written in a fluid, connected style across approximately seven lines.

Handwritten text in cursive script on the right page of an open manuscript. The text continues from the left page, written in a consistent fluid style across approximately seven lines.

家よりつけ居る物に
さしつかへなく
先づかきつけ
力に任せしむ
はるかに
新しき
さしつかへなく
南無

Handwritten text in a cursive script, likely a form of shorthand or a specific dialect. The text is arranged in approximately five horizontal lines across the page.

Handwritten text in a cursive script, continuing from the previous page. The text is arranged in approximately five horizontal lines across the page.



文化八年辛未秋得於原本寧明卿之家寫之

